

項目	チェック内容	A	B	C	D	現状と課題	今後の取組み		
① 教育課程	カリキュラム・マネジメント ※教科等横断的な視点で教育内容を組織し、PDCAサイクルを確立しているか。		○			・学んだことを教科間で生かすことができるように、単元を仕組んだり、組み替えている。 ・小中連携による学力向上推進地域指定事業を受け、教科間や学年間、学校間をつなげながら学習を仕組んでいる。	・全体や学年間で、年度当初や長期休業などに話し合い、検討する時間を確保できるようにする。		
② 単元	単元の学習過程 ※単元等のまとまりで問題解決的な学習過程を仕組んでいるか。		○			・国語や算数では、単元計画を児童と一緒に立てながら、単元を通して課題を設定している。対話的な学びの時間を取り入れて学習の深まり、広がりを意識して取り組んでいる。	・児童自ら主体的・対話的な学びに取り組めるための授業づくりとともに、知識や技能を身につけるための補修的な学びの時間も仕組んでいく。		
③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪	1 単位時間 課題提示 学習活動(課題解決) 評価	③ 単元全体の見通しと現在地の把握 ※児童生徒に学習の道筋を理解させているか、前時の復習をさせているか。		○		・毎時のワークシートに既習事項を書き、前時の復習をすることができている。 ・国語や算数を中心に学習計画表を作成している。他の学習でも、単元のゴールを明確にした学習を心がけている。	・単元計画を教室に掲示したり、学習の流れを提示したりして、単元全体や本時の見通しを持たせるようにする。既習内容をワークシートに載せたりすることで、現在地の把握ができるようにしていく。		
		④ 本時の学習課題の把握 ※児童生徒に解決すべき本時の課題を明確に把握させているか。		○		・一単位時間の学習の流れやめあてを授業始めに司会団や教師が示すことで、学習の流れに見通しを持って取り組むことができている。	・学習課題や学習の流れ、内容等をワークシートなどに載せるだけでなく、教師の話の中で既習事項や課題を明確に示し、見通しを持ち、主体的に取り組めるようにしていく。		
		⑤ 個別の課題解決学習(PersonalWork) * ※課題解決の時間や場を確保しているか。		○		・学習の中で必ず確保できている。しかし、書くことができる児童とそうでない児童の差が見られる。	・時間内に書くという訓練が必要である。 ・ワークシートやノートの工夫をし、ポイントシートを活用することで、学習内容に沿った書く視点を明確にし、どの児童も書くように手立てをとりたい。		
		⑥ グループによる課題解決学習(GroupWork) * ※課題解決に向け、複数意見からひとつの意見にまとめるような話し合いの場を仕組んでいるか。		○		・これまでの積み重ねで、型に沿って話し合うことができるようになってきたと感じられる。一人の意見をただ選ぶという話し合いになることも多くある。	・時には、話し合いの仕方を確認するような教師の声かけが必要である。 ・教師の話の中やワークシートに、話し合いの視点を明確に示すことで、児童の話し合いがスムーズに進むようにしていく。		
		⑦ クラスによる課題解決学習(ClassWork) * ※各グループの意見を生かした話し合いを仕組んでいるか。		○		・自分たちの力でまとめることができるようになってきたが、一部の児童の意見が採用されることが多く、学びの深まりがないときがある。	・児童が考えることができる場所は視点を明確にし、話し合いをさせ、難しいところは教師が効果的な発問をしながら進めるというスタンスで進めていく。そのためにも、教師が入るところとそうでないところをしっかりと見極めていく。		
		⑧ 教師による解説、解決、解答 ※児童生徒の学びを深め、理解不足を補う説明を行っているか。		○		・児童自身でまとめることができないときは、教師が補足・説明をするようにしている。	・一方的な教師の説明にならないように、児童の意見や考えを大切に受け入れながら、補足説明ができるように心がけていく。		
		⑨ 子どもの最終的な記述(表現) ※本時の学習課題と対応した記述(表現)をさせているか。		○		・学習のまとめを必ず書くようにしているが、児童自身でまとめることができなかったり、めあてとまとめがつながっていないことがあつた。	・単元計画や本時のめあてを確認しながら、まとめを記述させるようにしていく。		
		⑩ 学習の振り返り ※学んだことの整理や自己評価の場を設定しているか。		○		・ふり返りは行っているが時間が足りず、雑になってしまうことがある。また、全体で共有することができていないこともある。	・本時のめあてを意識させ、「この時間で身につけた力」など、振り返りにも視点を与えて、書かせるようにしていく。 ・時間を確保するためにも一単位時間の学習内容の精選が必要。		
		⑪ 条件に応じた記述(書く力) ※条件付きの書く活動を授業の中に仕組んでいるか。			○	・ワークシートやノートに書く活動を必ず設けている。できるだけ字数制限をしたり、書き方を指定したりと条件を与えている。	・授業やすすくタイムでの取り組み、日記での取り組みの中でよりよい書く活動の設定(条件の与え方)を工夫していく。		
		⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯	その他	⑫ 言語活動を活発にする教育環境 ※学習活動を活発にするために掲示物等の教室内外の環境を工夫しているか。			○	・UDの観点に乗り取り、掲示物を精選し、学習に必要な掲示をしており、学習のつながりが見える効果的な掲示を心がけている。	・児童の学びを深めるような掲示の環境をつくる。また、掲示物にも教師のコメントや資料の見方などを加え、掲示してよさに気づかせていく。
				⑬ ノート指導 ※学校や教師の指導の意図を反映させたノート指導を行っているか。		○		主にワークシートを工夫し、学習を進めている。めあてやまとめ、振り返りを書く枠や学習の流れなど、学校で統一して作成している。内容や領域によっては、ノートのかき方について指導・支援するときもある。	・教科や単元に応じて、ワークシートとノートを使い分け、効果的な指導が必要である。
⑭ 学習規律 ※児童生徒に学習規律を理解させ、主体的に守らせようとしているか。					○	・小中連携として取り組んでいる「立腰教育」を継続することで、静かに授業を始めることができている。話の聞き方、話し方など学習を支える基本的なところはしっかりと指導している。	・校内研の1つの柱でもある「話の聞き方」「返事」「反応」を徹底していく。 ・集会等も含め、児童の自主的な行動になるように支援していく。2分前行動の徹底をする。		
⑮ 家庭学習 ※単元の指導内容や方法と結びついた課題を出しているか。				○		・家庭学習の手引を参考に、大志小独自の手引を作成している。家庭にもそれを配布しており、共通理解を図っている。復習内容にとどまっているところがあるが、自主学習を通して予習的な学習ができるようにしている。	・独自の手引を参考にし、中学校区で家庭学習について話し合いを持ち、連携を図った予習の内容や学年総復習内容を計画的に取り入れるようする。また、自主学習に関しても復習だけにとどまらず、発展的なものや学習内容を活かした内容のものになるように支援していく。		
⑯ 学習内容の定着 ※学年間・小中間における教科の系統性を見通し、復習の時間を計画的に仕組んでいるか。					○	・小学校全体の系統性を考え、授業するようになっているが、定期的な復習の時間の確保まではできていない。また、朝のすすくタイムでの時間だけでは、短時間のため、個別指導の時間が足りない。	・各学年の年間計画を作成するときから、短期・長期的な復習の時間を組み込む時間を確保する。またすすくタイムを朝の時間に設け、定期的な復習の時間を確保する。		
その他の取組み	*学習内容の補修の時間の確保・・・昼休みや放課後を使い、基本的な内容の定着を図る。 *「大志っ子ノート」・・・年度初めに各学年で改善を行い、生活のふり振り返りノートを全校的に内容面で統一性を図りながら行うようにした。家庭と子どもと教師の間やりとりの中で、子ども達の学習や学校生活について、家庭に関心を持ってもらうこと、家庭学習を定着させることをねらいとしている。 *「すすくタイム」・・・基礎・基本の力の定着・書く力をつけることをめざし、毎週火曜日と木曜日の朝の時間に10分程度、その日の復習や既習内容の基本問題などに取り組ませる時間を設けている。 *「全校すすくテスト」・・・月末の火曜日か木曜日、全校一斉にテストをする。各クラスの平均点を出し、玄関に掲示している。基礎的な問題が中心である。								

* PW・GW・CWについて順序性はない。授業のねらいと児童生徒の実態に応じて組み合わせる。